



ETK0043075D

光ケーブル用後分岐クロージャ

(スロット切断型後分岐用)

<MJC-FH3-TBB>

接続工法書

▽ご使用前に、この工法書をよくお読みの上内容をよく理解してからご使用下さい。
▽お読みになった後も、この工法書を大切に保管して下さい。

 住友電気工業株式会社

安全上のご注意 ~安全にご使用いただくために必ずお守りください~

この工法書には、人身への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にご使用いただくために守っていただきたい事項を示しています。その表示と図記号の意味は次に示すとおりになっています。内容をよくご理解の上、本文をお読みください。

本クロージャに関する安全上のご注意	
<p>⚠ 危険</p> <p>右記内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が極めて高いことが想定されます。</p>	
<p>⚠ 警告</p> <p>右記内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本クロージャは、落下などのないよう確実に固定してください。
<p>⚠ 注意</p> <p>右記内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性および、物的損害のみの可能性が想定されます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・刃物などのご使用には十分注意してください。 ・光ケーブルの固定を確実にを行うために、適正なケーブル把持金具をご使用ください。 ・適正なグロメットおよびガスケットをご使用ください。浸水の原因となります。 ・締め付けトルクの規定をした作業は、その規定値を守って作業をしてください。浸水やクロージャ破損の原因となります。 ・本クロージャは防水タイプですが、海中・河川の水・下水道などには設置しないでください。 ・塩害地域での使用の場合は、ステンレス鋼でも腐食する場合があります。
<p>お願い</p> <p>右記内容を無視して、誤った取り扱いをすると、本製品の性能を発揮できない可能性および、機能停止をまねく可能性が想定されます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・乾燥剤が必要な場合は、別途ご用意ください(性質上、長期保管できないため)。また、乾燥剤は光ファイバ心線に圧迫を与えない位置にお入れください。 ・光ファイバ心線に関しては、許容曲げ半径「R_c≥30mm」をお守りください。 ・融着作業に関しては、ご使用の融着接続機添付の取扱説明書をご覧ください。 ・本クロージャの解体・再組立・導入ケーブルの追加などの作業を行う際は別途、部品の交換や追加を必要とする場合がありますので、事前に弊社・営業担当までご相談ください。 ・設置後、長期間(半年~1年程度以上が目安です)経過した後の、解体・再組立作業を行う際は、念のためグロメット(閉塞栓)・ガスケットをあらかじめ、別途ご用意いただくことをおすすめします。

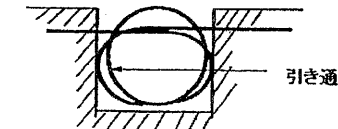
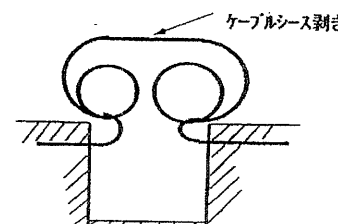
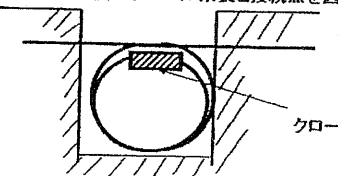
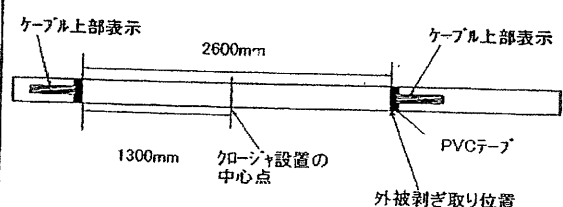
光ケーブル用後分岐クロージャ<MJC-FH3-TBB>接続作業工程フロー

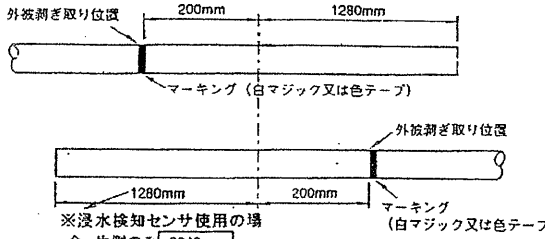
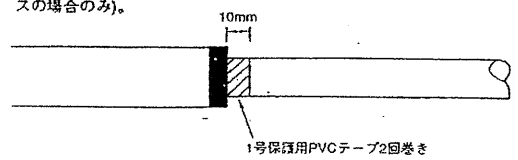
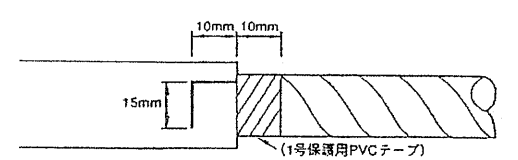
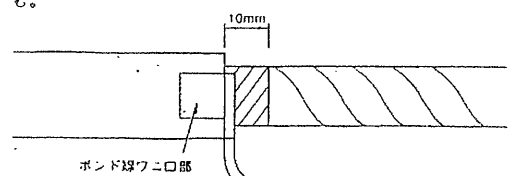
※印 ノンメタリックケーブル接続の場合は不要です。

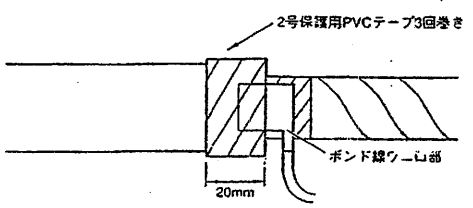
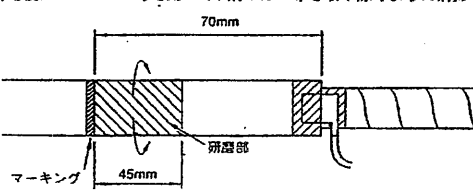
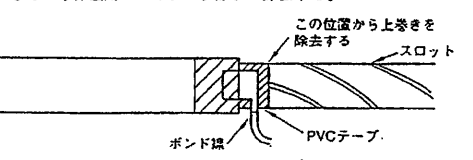
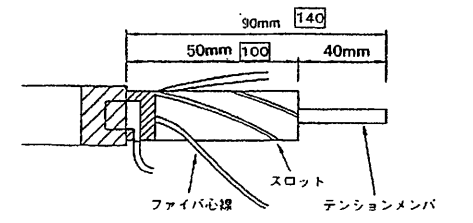
項目	作業工程	項目	作業工程
1	ケーブルの切断と外被の剥ぎ取り	9	ケーブルの取り付け
2	アースボンド線の取り付け ※	10	心線のトレイへの導入
3	ケーブル外被の研磨・清掃と上巻の除去	11	心線の融着接続
4	スロットの切断とテンションメンバのむき出し	12	心線の収納
5	識別チューブの挿入	13	スリーブガasketの取り付け
6	ケーブル把持金具の取り付け	14	スリーブ(上)の取り外し
7	ケーブルへのグロメットの取り付け	15	ガスフラッシュテスト
8	スリーブ(上)の取り外し		

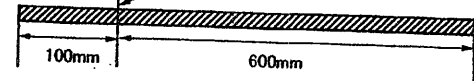

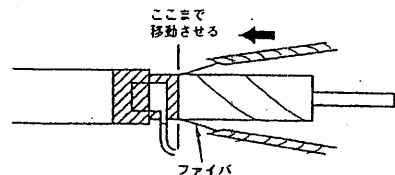
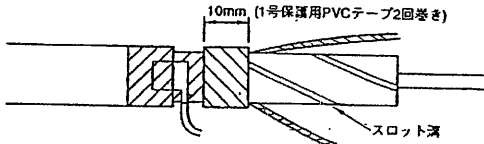
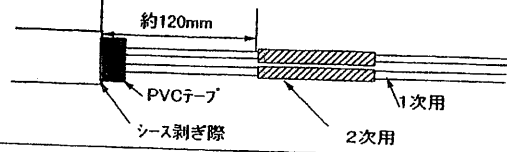
使用工具一覧表

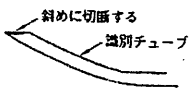
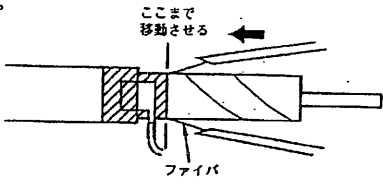
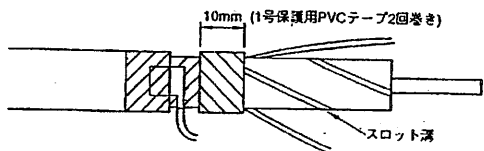
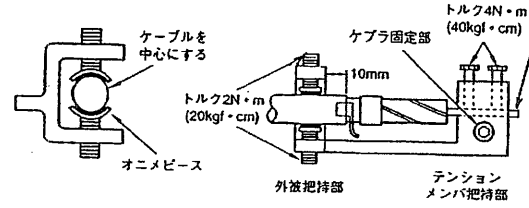
項	品名	備考	項	品名	備考
1	ボールポイントドライバ	呼び: 5	6	ペンチ	
2	トルクレンチ	2~4N・m 以上 (20~40kgf・cm)	7	LAPカッター	
3	トルクレンチソケット	呼び: 5	8	コンベックス	2~3m用
4	ニッパ		9	ケーブルカッター	
5	NTカッター		10	ワイヤクリッパー	
			11	スパナ	架空用 吊り金具ボルト用

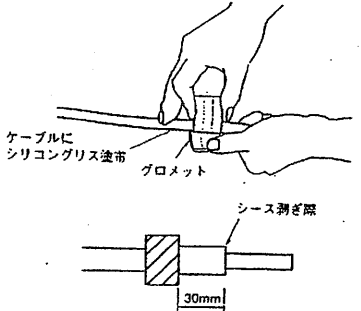
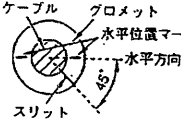

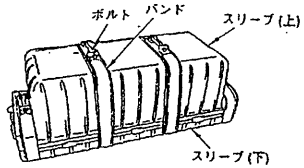
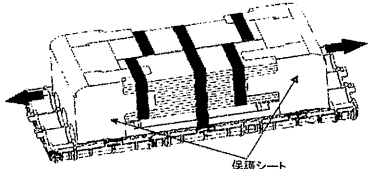
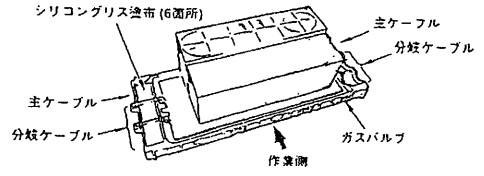
項目	作業手順	備考
1	<p>ケーブルの切断と外被の剥ぎ取り(引通し心線の場合)</p> <ol style="list-style-type: none"> 引通しケーブル布設時、ケーブル余長の束取りはスロットを切断し引き寄せる長さ(2240mm)を考慮し、予め長めに布設すること。  <ol style="list-style-type: none"> ケーブル接続はハンドホール等からケーブルを引き出し作業をすること。  <ol style="list-style-type: none"> クロージャ組み立て後にケーブル余長と接続点を図のように収納すること。  <ol style="list-style-type: none"> 下図のようにクロージャ設置の中心点から左右に1300mm (合計 2600mm)の位置にPVCテープ等でマーキングする。 下図のようにケーブル上部表示を白マジック等で左右共に表示する。 マーキング位置よりLAPカッター等を用いケーブル外被を剥ぎ取る。 	<p>・目的については、スロット切断後(ケーブルを引き寄せる)、ケーブル把持をするまでにねじれを防止する目印。</p> <p>・ケーブル内部のファイバに傷を与えないよう慎重に外被を剥ぎ取ること。</p>

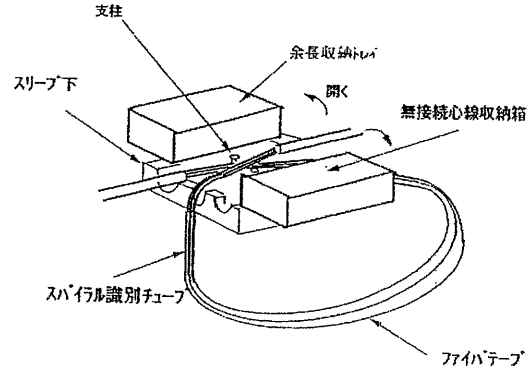
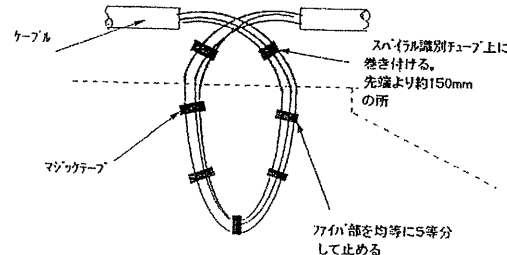
項目	作業手順	備考
1	<p>ケーブルの切断と外被の剥ぎ取り(直線・分岐接続心線の場合)</p> <p>1. 接続中心点から1280mmの位置でケーブルを切断し、接続中心点から200mmの位置で外被へマーキングする。</p>  <p>外被剥ぎ取り位置 200mm 1280mm マーキング (白マジック又は色テープ)</p> <p>外被剥ぎ取り位置 1280mm 200mm マーキング (白マジック又は色テープ)</p> <p>※ 浸水検知センサ使用の場合、片側のみ 2240mm。</p> <p>2. マーキングの位置で外被を剥ぎ取る。</p> <p>3. 外被剥ぎ取り際に、1号保護用PVCテープを2回巻き付ける(LAPシースの場合のみ)。</p>  <p>10mm 1号保護用PVCテープ2回巻き</p>	<p>※ マーキングは白マジック又は色テープで行うと良い。</p> <p>※ スラッグ長は含まない</p> <p><使用工具> ・コンベックス (2m) ・ラップカッター ※ ケーブル内部の光ファイバには充分注意する。</p> <p><使用工具> ・ハサミ・ニッパ</p>
2	<p>アースボンド線の取り付け (LAPシースの場合のみ)</p> <p>1. ケーブル外被にアースボンド線取付用の切り込みを入れる。(寸法は下図による)</p>  <p>10mm 10mm 15mm (1号保護用PVCテープ)</p> <p>2. 切り込み部のシースをニッパ等で引きおこす。</p> <p>3. 引きおこしたLAPシースにボンド線のワニ口部を取り付けてベンチで挟む。</p>  <p>10mm ボンド線ワニ口部</p>	<p>※ ケーブル内部の光ファイバには充分注意する。</p> <p><使用工具> ・ラップカッター</p> <p>※ シースのラップ (アルミ) 部が切れないように引きおこす。</p> <p><使用工具> ・ニッパ ※ ボンド線の取付方向に注意する。(図のように)</p> <p><使用工具> ・ベンチ</p>

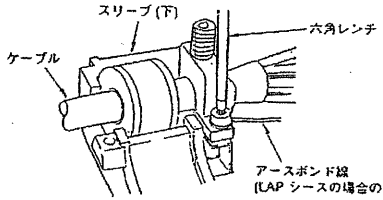
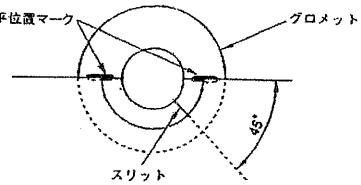
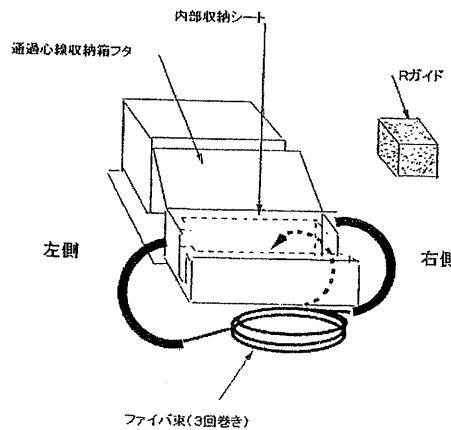

項目	作業手順	備考
2	<p>4. ボンド線のワニ口部に2号保護用PVCテープを3回巻き付ける。</p>  <p>2号保護用PVCテープ3回巻き 20mm ボンド線ワニ口部</p>	<p>※ テープの巻き始めはワニ口の下に入れる。</p> <p><使用工具> ・ハサミ</p>
3	<p>ケーブル外被の研磨・清掃と上巻の除去</p> <p>1. 外被剥ぎ取り際より70mmの位置にマーキングをして、マーキングの位置から約45mmの幅(ボンド線側)を#240サンドクロスで外被を円周方向に研磨する。</p>  <p>70mm 45mm 研磨部 マーキング</p> <p>研磨後はアルコール等を用いて、削りカス等を取り除くように清掃する。</p> <p>2. 上巻を1号保護用PVCテープ際より除去する。</p>  <p>この位置から上巻きを除去する 45mm 70mm スロット ボンド線 PVCテープ</p>	<p>※ 研磨は必ず円周方向で行う。水平方向に絶対おこなわない。</p> <p>(水平方向に行くと研磨の後からガス漏れ、浸水が発生することもある)</p> <p>※ ケーブル外被に傷があった時は傷がなくなるまで研磨する。</p> <p><使用工具> ・#240サンドクロス</p> <p>※ ファイバ心線に細心の注意をして行う。</p> <p><使用工具> ・ニッパ</p>
4	<p>スロットの切断とテンションメンバのむき出し</p> <p>1. 下図に示す寸法でスロットを切断し、テンションメンバをむき出す。</p> <p>* 注意 ケーブル外径がφ26~32mmの場合は、下記口内の寸法で剥き出しをする。</p>  <p>90mm 140 50mm 100 40mm ファイバ心線 スロット テンションメンバ</p>	<p>※ ファイバがスロット内に残っていないことを確認する。</p> <p>※ ファイバ心線に細心の注意をすること。</p> <p><使用工具> ・ケーブルカッター ・ワイヤクリップ</p> <p>※ 専用のクリーニングキットを使用する。</p>

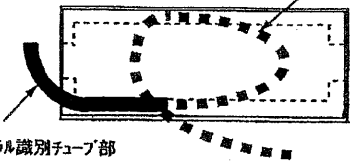
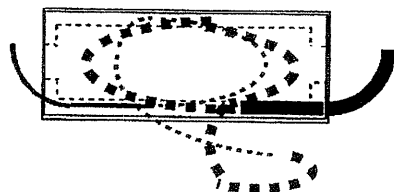
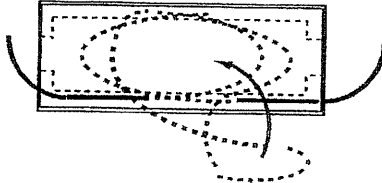
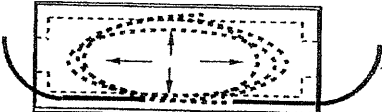
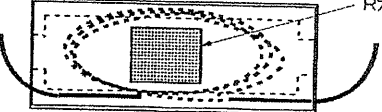
項目	作業手順	備考																																		
5	<p>識別チューブの挿入(引き通し心線の場合)</p> <p>1. スパイラル識別チューブの先端を100mm切断し2次識別表示用を準備する。</p>  <p>2. 識別表示例 識別表示はケーブルスロット溝単位でスパイラル識別チューブを使い心線の識別をする。</p> <p>心線番号—識別色対応一覧(1000心の場合)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="5">1次識別色</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>青</th> <th>黄</th> <th>緑</th> <th>赤</th> <th>紫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="2">2次識別色</th> <th>青</th> <td>1-80</td> <td>81-160</td> <td>161-240</td> <td>241-320</td> <td>321-400</td> </tr> <tr> <th>黄</th> <td>401-480</td> <td>481-560</td> <td>561-640</td> <td>641-720</td> <td>721-800</td> </tr> <tr> <th>緑</th> <td>801-880</td> <td>881-960</td> <td>961-1000</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3. スパイラル識別チューブ(1次用)600mmの先端を斜めに切断する。</p>  <p>4. スパイラル識別チューブ(1次用)を心線に添わせ巻き付ける。PVCテープ際までチューブの先端を移動させる。</p>  <p>5. スパイラル識別チューブ(1次用)上に1号保護用PVCテープを2回巻き付けて固定する。</p>  <p>6. スパイラル識別チューブ(2次用)を上記で巻き付けたスパイラル識別チューブ(1次用)上に巻き付ける。寸法についてはシース剥き際から約120mmのところに巻き付ける。</p>  <p>巻き付ける識別は この項の 2. 識別表示例を参照のこと</p>			1次識別色							青	黄	緑	赤	紫	2次識別色	青	1-80	81-160	161-240	241-320	321-400	黄	401-480	481-560	561-640	641-720	721-800	緑	801-880	881-960	961-1000				<p><使用工具> ・ニッパ又はハサミ</p> <p>*スパイラル識別チューブの巻き付け順 1. 青 2. 黄 3. 緑 4. 赤 5. 紫</p> <p>*6番目のスロット溝から巻き付けスタート</p>
		1次識別色																																		
		青	黄	緑	赤	紫																														
2次識別色	青	1-80	81-160	161-240	241-320	321-400																														
	黄	401-480	481-560	561-640	641-720	721-800																														
緑	801-880	881-960	961-1000																																	

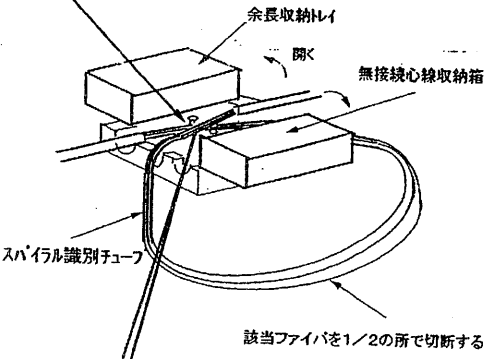
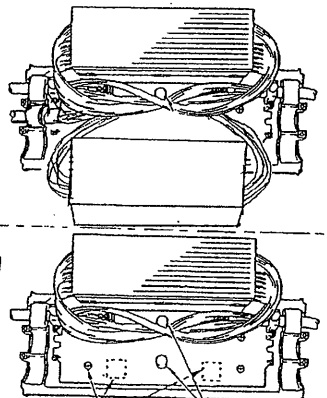
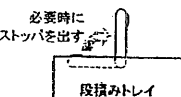
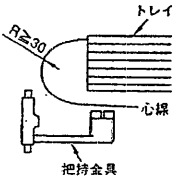
項目	作業手順	備考
5	<p>識別チューブの挿入(直線・分歧接続心線の場合)</p> <p>1. 識別チューブの先端を斜めに切断する。備考に示す長さで識別チューブを切断する。</p>  <p>2. 識別チューブを心線に挿入し、PVCテープ際までチューブの先端を移動させる。</p>  <p>3. 識別チューブ上に1号保護用PVCテープを2回巻き付けチューブを固定する(LAPシースなしの場合は2号保護用PVCテープを使用しても良い)。</p> 	<p><使用工具> ・ニッパ又はハサミ *識別チューブの挿入順 1. 青 2. 黄 3. 緑 4. 赤 5. 紫</p> <p>*識別チューブ長はケーブルの取付位置(9-1項参照)により下記を目安とする。 ▽主ケーブル心線 560~590mm ▽分歧ケーブル心線 570~600mm</p> <p>[注意]同一のスロット溝に、複数の識別チューブを挿入する場合は、その上からPVCテープを巻かないこと。(ファイバ心線の、圧迫防止)</p> <p>*識別チューブはスロットの溝に入れ、PVCテープを巻く場合は、できるだけ外被の剥き際で巻く。 *把持金具より露出している、テンションメンバ先端を、2号PVCテープなどにて、養生すること。 *オニメジの向きに注意すること。</p>
6	<p>ケーブルへの把持金具の取り付け</p>  <p>1. テンションメンバ把持部にテンションメンバを挿入し、上図に示すような位置に把持金具を取り付ける。 注意：外部把持部の中心にケーブルがくるようにオニメベースを調整する。</p> <p>2. 各部の締め付けトルクは、ケーブル外被把持は2N・m(20kgf・cm)、テンションメンバ把持部のボルトは4N・m(40kgf・cm)で締め付ける。</p> <p>3. ケーブルにケブラがある場合は、予めテンションメンバ把持部の側面ネジに巻き付け、トルク4N・m(40kgf・cm)で締め付け固定する。</p>	<p>○ オニメベースケーブル × オニメベースケーブル</p> <p>*締め付けトルクは規定値を必ず守ること。但し、特殊なケーブルで軟らかいケーブル外被の場合は、オニメ先端がケーブル外被に当たってから半回転締め付けた程度とする。 *締め付け時の過大トルクは、ケーブル破損や部品破損の恐れがあるため、指定トルクを厳守するために締め付け終了前は、ゆっくりと締め付けること。</p>

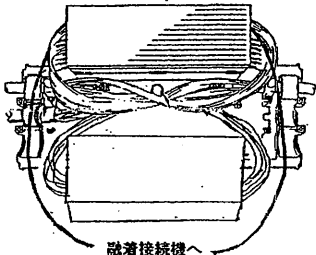
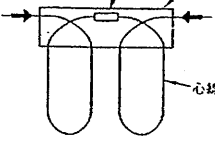
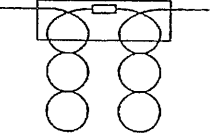
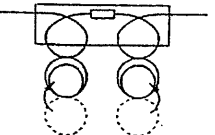
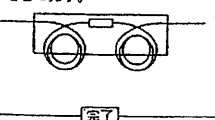
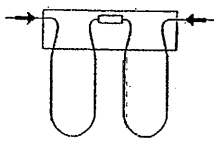
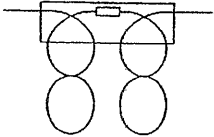
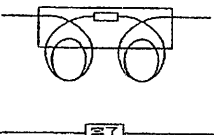
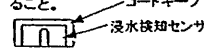
項目	作業手順	備考
7	<p>ケーブルへのグロメットの取り付け</p> <ol style="list-style-type: none"> グロメットの内側に、シリコングリスを薄く均一に塗りのばす。 グロメットをケーブルに取り付ける。取り付け位置は下図のとおり。 	<p>※グロメット(閉塞後)・ガスケットの表面に、ゴミなどが付着しないよう注意すること。付着した場合は、アルコールなどにきれいに拭き取ること。</p> <p>※グロメットのスリットが、下に45°の向きになるようにしておく。(9.4項参照)</p>  <p>※太径ケーブルの場合、グロメットの両端を引張り、スリットが密着するように取り付ける。</p> 
8	<p>スリーブ(上)の取り外し</p> <ol style="list-style-type: none"> スリーブのバンド固定ボルトを弛め、スリーブ(上)を取り外す。 スリーブ中身の両端にある保護シートを取り外す。  	
9	<p>ケーブルの取り付け</p> <ol style="list-style-type: none"> スリーブ(下)のグロメット装着面に、シリコングリスを薄く均一に塗りのばす。 把持金具の付いたケーブルをスリーブ(下)に取り付ける。ケーブルの導入位置は下図のとおり。 	

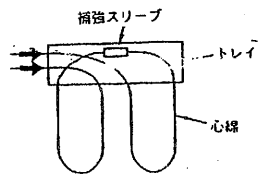
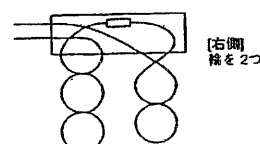
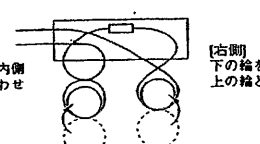
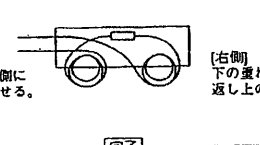
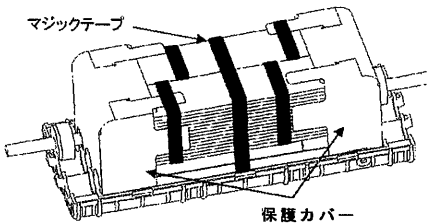
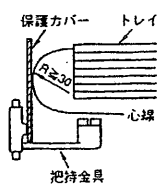
項目	作業手順	備考
9	<ol style="list-style-type: none"> 余長収納トレイ及び通過心線収納箱を両サイドに90°開き倒す。 引き通しケーブルを取付位置に仮置きし、スリーブ下の中央部にある2本の支柱間にファイバ束を配線する(下図参照)。 引き通しケーブルの剥き取り長(2600mm)にはファイバ自体の燃りピッチが5回分ある。この燃りピッチを剥き取り長の間で均等になるように手でさばく。 下図の通りに添付のマジックテープにて等間隔にファイバ束を軽くまとめる。横にスライドする程度で巻き付けること。  	<p>ファイバ束を配線する際はクローゼット内部の金具や周囲の障害物にファイバを引っかけないよう慎重に作業のこと。</p> <p>燃りを部分的に集中させると後の収納作業に影響が出るので燃りピッチ調整を厳守のこと。</p> <p>きつく巻き付けけないよう注意のこと。</p>

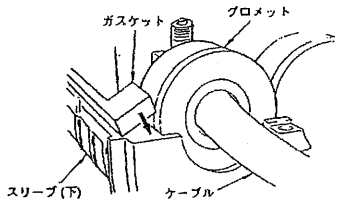
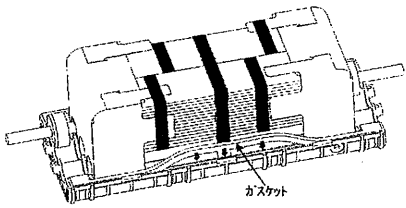
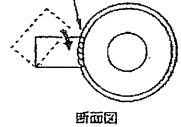
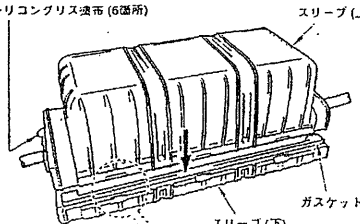
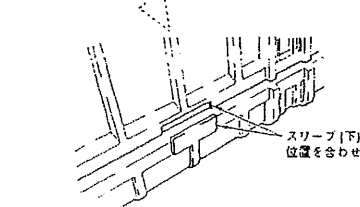
項目	作業手順	備考
9	<p>7. 把持金具の固定ボルトをトルク4N・m(40kgf・cm)で締める。</p>  <p>8. グロメットのスリットが下に45°の向きになるようグロメット位置を修正する。</p>  <p>9. 下图の通りに引き通しファイバ束を3回巻きを輪にして、通過心線収納箱内(内部収納シート)に収納する。収納手順はステップ10から説明。</p> 	<p>※ 太径ケーブルの場合、グロメットの両端を引張り、スリットが密着するように取り付ける。</p> 

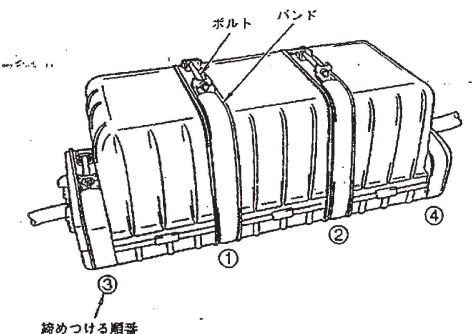
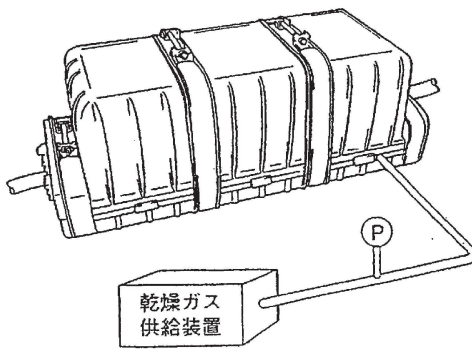
項目	作業手順	備考
9	<p>10. 通過心線収納箱の左側入り口に左側のファイバ束を挿入して約150mm程度の左巻きの輪をつくり入れる。</p>  <p>11. 通過心線収納箱の右側入り口に右側のファイバ束を挿入して約150mm程度の右巻きの輪をつくり入れる。</p>  <p>12. 10、11の作業後残りのファイバで輪ができる。その輪を通過心線収納箱の中に入れる。</p>  <p>13. 収納後にファイバ束の径が揃うように、上下左右に指で調整しファイバ束を整える。</p>  <p>14. ファイバの曲げ半径を確保するため、添付のRガイドを中央部に挿入し通過心線収納は完了。収納箱のフタを閉めて固定用のマジックテープで収納箱外周を巻き付け固定する。</p> 	<p>・収納箱の外部の配線はできるかぎり短くなるよう配線を調整のこと</p> <p>・フタを閉める時にはファイバの挟み込みのないことを確認のこと。</p>

項目	作業手順	備考
10	<p>心線のトレイへの導入</p> <p>1. 通過心線収納箱からファイバの束を取り出す。引き通しファイバの中から分岐するファイバを取り出す。取り出す際は2次識別のスパイラル識別チューブの所まで1次スパイラル識別チューブを巻き戻し取り出す。</p>  <p>2. 残りのファイバは使用しないのでスパイラル識別チューブを再度巻き付け、9項のケーブル取付手順にしたがい通過心線収納箱に収納する。</p> <p>3. 該当ファイバは添付の識別チューブを挿入し保護する。その際は接続用の余長収納トレイ入り口までの長さを確認し適切な長さに識別チューブを切断しておく。</p> <p>4. 分岐ケーブルの準備を 1項のケーブルの切断と外被の剥ぎ取り(直線・分岐接続心線の場合)手順で準備する。</p> <p>5. 心線を覆ったチューブを下図のように2本の支柱の間に通しトレイに導入する。</p>  <p>※ 浸水検知センサ取り付け位置 ※ 心線導入方法、別紙参照</p>	<p>備考</p> <p>・ファイバ束を取り扱う際はクローザ内部の金具や周囲の障害物にファイバを引っかけないよう慎重に作業のこと。</p> <p>※トレイを開く際は、トレイストップを使用する。 必要時にストップを出す。</p>  <p>※ 心線の曲げ半径が $R \geq 30$ mm となるようトレイに導入すること。</p> 

項目	作業手順	備考
11	<p>心線の融着接続</p> <p>1. 仮収納したトレイから、ねじれが入らないようにテープ心線を手前にもってくる。</p>  <p>心線の収納</p> <p>1. トレイ両端からの心線を収納する場合。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="1332 614 1579 1420"> <p>(A) 巻数 3回の場合</p> <p>① 補強スリーブを1回転させ図の様にクロスした状態で捻じれが無いことを確認する。</p>  <p>補強スリーブ トレイ</p> <p>心線</p> <p>② 上の状態から図の様にクロスさせ輪を3つ作る。</p>  <p>③ いちばん下の輪を内側に返し、上の輪と合せる。</p>  <p>④ 下の重なった輪を内側に返し上の輪と合せ完了。</p>  <p>完了</p> </div> <div data-bbox="1601 614 1848 1420"> <p>(B) 巻数 2回の場合</p> <p>① 補強スリーブをそのまま固定し、図の状態では捻じれが無いことを確認する。</p>  <p>② 上の状態から図の様にクロスさせ輪を2つ作る。</p>  <p>③ 下の輪を内側に返し上の輪と合せ完了。</p>  <p>完了</p> </div> </div>	<p>備考</p> <p>※ 金具固定ネジを緩めた後、再度締め付ける際は、本体のインサートナットを破損しないよう、過度に締め付けないこと。</p> <p>※(浸水検知センサ取付のみ) センサを挟んだコードキープを付属粘着テープにてスリーブに固定する。貼り付け箇所はアルコールなどにて拭き取ること。</p>  <p>※ トレイ片端からの心線を収納する場合は 1 2. 2 項を参照。</p>

項目	作業手順	備考
1 2	<p>2. トレイ片端からの心線を収納する場合。</p> <p>(例) 巻数、左側3回、右側2回の場合</p> <p>① 補強スリーブを1回転させ、図の状態で捻じれが無いことを確認する。</p>  <p>② [左側] 輪を3つ作る。 [右側] 輪を2つ作る。</p>  <p>③ [左側] いちばん下の輪を内側に返し上の輪と合わせる。 [右側] 下の輪を内側に返し、上の輪と合わせる。</p>  <p>④ [左側] 下の重ねた輪を内側に返し上の輪と合わせる。 [右側] 下の重ねた輪を内側に返し上の輪と合わせる。</p>  <p>完了</p> <p>3. 段積みトレイをマジックテープで固定し、保護カバーを取り付ける。</p> 	<p>※ 心線の曲げ半径が $R \geq 30$ mm となるようトレイに導入すること。</p> 

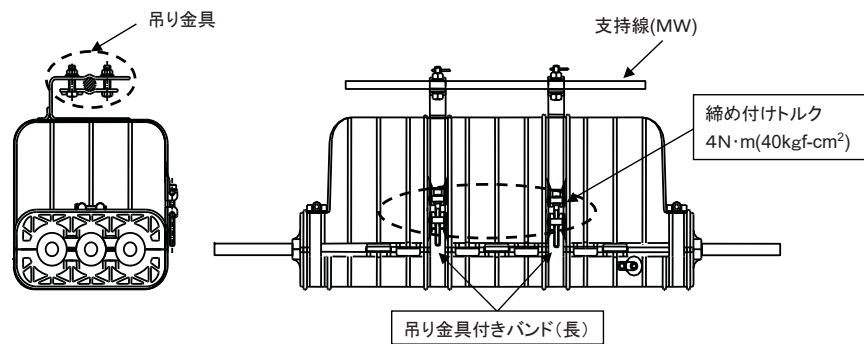
項目	作業手順	備考
1 3	<p>スリーブガasketの取り付け</p> <p>1. ガasketの端面(グロメットに接するところ)に、シリコングリスを薄く均一に塗りのばす。</p> <p>2. ガasketの両端部をスリーブ(下)の溝にそれぞれはめる。</p>  <p>3. ガasketの中間部をスリーブ(下)の溝にはめる。</p> 	<p>※ ガasketの両端部がグロメットに確実に接するよう、倒しこんで取り付ける。</p> <p>シリコングリス塗布</p>  <p>断面図</p> <p>※ ガasketの中間部が倒れないよう長手方向に溝にはめる。</p> <p>○ ×</p> <p>※ グロメット(閉塞栓)・ガasketの表面に、ゴミなどが付着しないよう注意すること。付着した場合は、アルコールなどにてきれいに拭き取ること。</p>
1 4	<p>スリーブ(上)の取り付け</p> <p>1. スリーブ(上)のグロメット装着面にシリコングリスを薄く均一に塗りのばす。</p> <p>2. ガasketがかみ込まないようスリーブ(上)をスリーブ(下)にはめる。</p>   <p>スリーブ(下)の爪の位置を合わせる。</p>	

項目	作業手順	備考
14	<p>3. バンドでスリーブを締めつける。※架空仕様の場合は、別紙2参照のこと。締めつけトルクは、$4\text{ N}\cdot\text{m}$ ($40\text{ kgf}\cdot\text{cm}$)とする。中心から外側に向かって、番号順に数回に分けて均等に締める事。</p> 	<p>※スリーブガスケットが溝にきちんと入っているか確認しながら締め付ける。</p> <p>※左図①、②を締めた時点でスリーブガスケットの<u>かみ込みのないこと</u>を確認し、その後で③、④を取り付ける。</p>
15	<p>ガスフラッシュテスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乾燥ガス供給装置からの接続部と、クロージャのガスバルブと継手で接続し、39.2kPa($0.4\text{kgf}/\text{cm}^2$)の圧力を供給しながら、点検液をクロージャシール部に塗布して漏洩箇所のない事を、約10分間確認する。(下図参照)。 2. バルブ継手を取り外し、ガスバルブ部に点検液を塗布し漏洩の無い事を確認する。 3. 点検終了後、点検液を真水等で洗い落とす。 	<p>※再組立時のフラッシュテストにおいて、漏洩が発生した場合、グロメット(閉塞栓)・ガスケットを新品に交換してください。</p>

架空設置方法

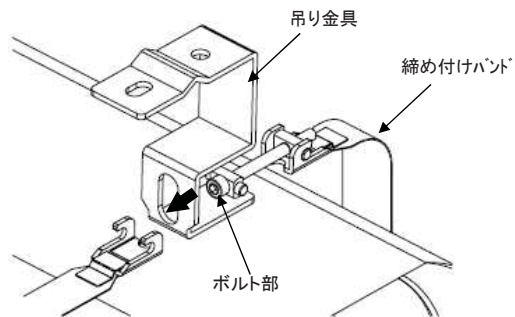
① 締め付けバンド一体型の吊り金具の場合(FH3 吊り金具)

- (1) 添付の吊り金具付き締め付けバンド(長)をスリーブに取り付ける。 下図参照
締め付けトルク $4\text{N}\cdot\text{m}(40\text{kgf}\cdot\text{cm}^2)$
- (2) ガスフラッシュテストを実施する。 15項と同じ手順で実施する
- (3) 吊り金具でメッセンジャワイヤを挟み込みナットを締めて固定する。
締め付けトルク $4\text{N}\cdot\text{m}(40\text{kgf}\cdot\text{cm}^2)$ 以上を目安とする。

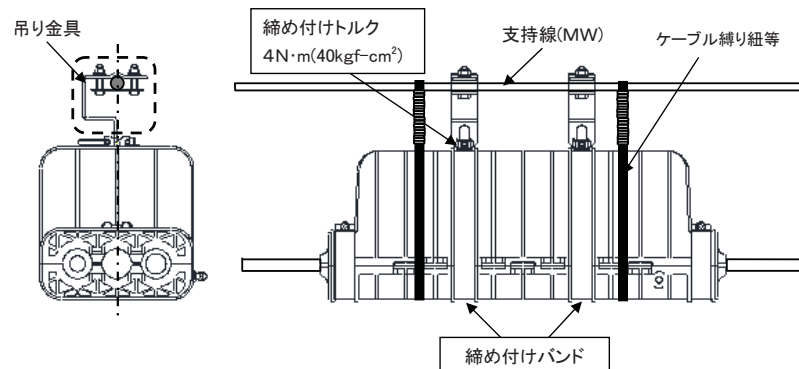


② 締め付けバンドと別体型の吊り金具の場合(FH3 バンド組込型吊り金具)

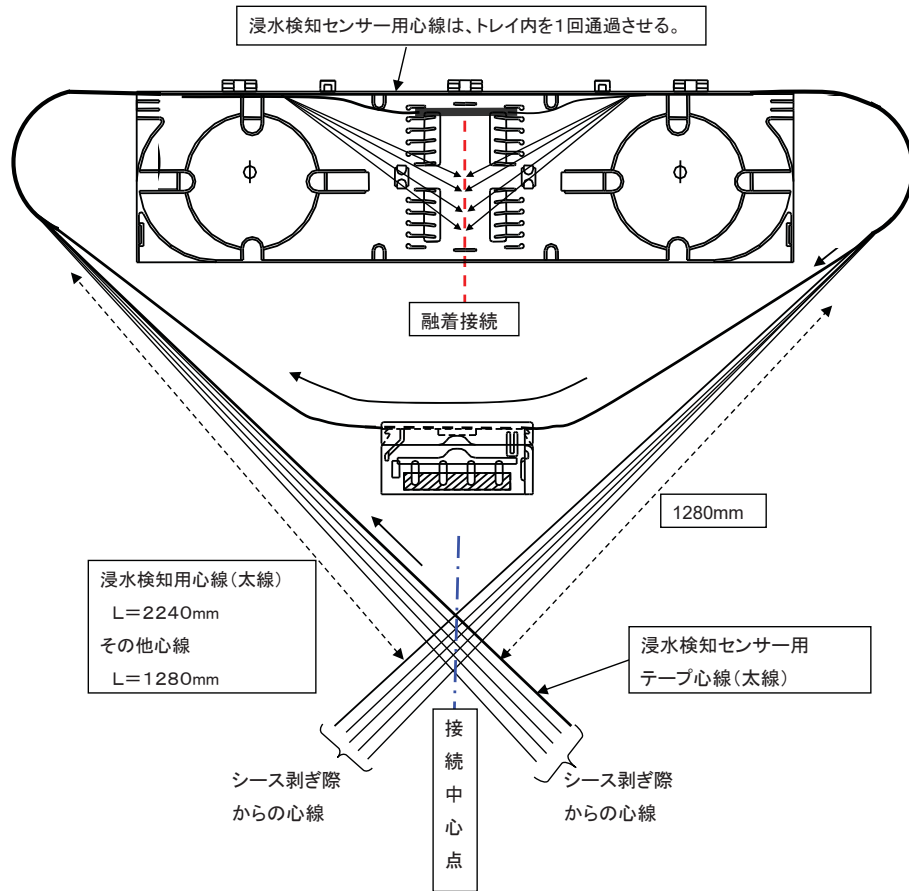
- (1) 締め付けバンドのボルト部を添付の吊り金具の長穴に通し、スリーブに共締めする。 次ページ図参照
締め付けトルク $4\text{N}\cdot\text{m}(40\text{kgf}\cdot\text{cm}^2)$
- (2) ケーブル縛り紐等でクロージャとメッセンジャワイヤをしっかりと縛り固定する。
- (3) ガスフラッシュテストを実施する。 15項と同じ手順で実施する
- (4) 吊り金具でメッセンジャワイヤを挟み込みナットを締めて固定する。
締め付けトルク $4\text{N}\cdot\text{m}(40\text{kgf}\cdot\text{cm}^2)$ を目安とする。



注意: メッセンジャワイヤ固定部とクロージャの中心がなるべく同じ位置になるように取り付けて下さい。



浸水検知センサー用テープ心線の導入図(例)



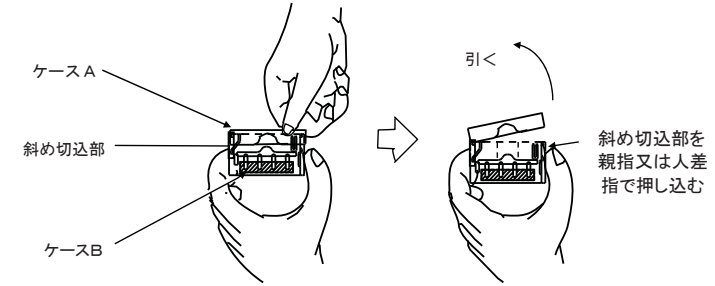
ETK9943038

浸水検知センサー取付け方法

住友電気工業株式会社

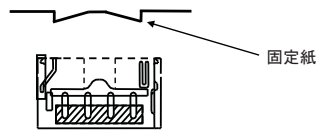
1. ケースA・ケースBの外し方

図のように、浸水検知センサーのケースBの両わきを指で押さえケースBの端を親指又は人差指で斜め切り込み部を押し込む様にながら、もう一方の手で押し込んだ側のケースAを引いて、ケースA・ケースBを分離します。(下図参照)



本図は親指側を押し込んだ例

分離後、中に入っている固定紙を取り除いて下さい。(下図参照)



2. 浸水検知センサーの取り付け

ケースAとケースBの間に浸水検知用テープ心線を挟み込み、ケースAをケースBに装着します。

(装着時にカチッと音がします)

この時挟み込んだテープ心線が「捻じれていないか」また「ケースBの溝」に確実に入っているか確認して下さい。(下図参照)

装着が終了しましたら、ケースAとケースBが確実に嵌合しているか確認して下さい。

(原則として、浸水検知センサーにはテープ心線をばらさずにテープ心線のまま挟み込みます。)

